

## 吃音の症状に理解を 古里小5年生 接し方聞く

吃音について学ぶ児童



古里小学校の5年生は12日、総合的な学習の時間の授業参観で、言葉がつかえたり出にくくなったりする「吃音」について吃音の当事者や言語聴覚士から学んだ。

当事者でウェブ製作会社を営む皆川裕己さん

ん(37) 安曇野市 是、小学校時代に教科書を音読できなかったり、自分の名前が言えなかったりした経験を紹介し、「からかわれることもあって毎日不安な気持ちで学校生活を送っていた」と振り返った。その上で、「困っている人がいたら想像力を持って接してほしい」と語りかけた。

言語聴覚士の内藤麻子さん(56) 松本市

は、吃音の特徴や症状をスライドや映像で紹介。「吃音が出ないように工夫すればするほど話しづらくなる。そんな時は待つて聞いてほしい」と理解を求めた。

保護者を含め約160人が聞いた。授業後、中村ひかりさん(11)は「吃音がある人がいたら、ちゃんと向き合ってゆっくり話を聞きたい」、徳永ひなたさん(11)は「障害があっても、みんな同じように過ごしたいなと思った」とそれぞれ話していた。

同校は、吃音のある児童の要望をきっかけに同様の授業を行っており、今回で4回目。